

# 普天間飛行場移設問題 ～政治判断とは～

## 月刊脊振

福岡県議会議員  
(南区選出) 明ひぐち  
県政活動報告誌



大震災に見舞われ、国難のときを迎えている上に、竹島問題の深刻化、尖閣への強行上陸など、難しい外交を強いられるわが国。安全保障に重要な役割を占めてきた日米安全保障条約にもオスプレイの配備問題や普天間飛行場問題など、懸念事項が山積してきます。先日、自民党青年局の研修が沖縄県で開催され、参加してきました。沖縄が抱える米軍基地問題をはじめとする日米安全保障について勉強させて頂きましたが、普天間飛行場を視察した際には、あまりにも危険な立地条件に改めて愕然としました。人々が日常生活を営む宜野湾市の住宅街の真ん中に、中間地帯を設けることもなく突如として普天間飛行場があります。近隣には教育施設も多く、子ども達の頭のすぐ上をひっきりなしにヘリや軍用機が離発着を続けているという現実が深刻だと言わざるを得ません。市長をはじめとする議員の皆さんも、普天間問題は議論が膠着し、棚上げ状態になっていると頭を抱えておられました。現在、国内の在日米軍基地の7割が沖縄県に偏在しています。沖縄に過大な負担を強いなければ国防戦略が立ち行かない現状には大きな問題があることは明らかであり、また戦時中、沖縄県民が払った痛ましい犠牲を思い起こせば、普天間飛行場の県内移設を沖縄に強要することは過酷だと思えます。しかし、普天間飛行場の移設についてのこれまでの調査によると、沖縄県の皆さんが望まれている 県外移設は現実問題として相当難しいこともわかっています。

そもそもこの問題の混乱は、一国の首相が「最低でも県外」と何度も明言したことに始まります。その言葉を信じて沖縄の人々が期待を抱いたのは当然であり、首相が交代したからといって県民感情が簡単にリセットできるはずはありません。今となっては県外移設を主張する民主党の国会議員は皆無に等しく、民主党の無知無策により普天間飛行場は現状維持のままです。そして宜野湾市民の不安とストレスは何一つ解消されてはいけません。しかし、いつまでも移設問題を先延ばしにするわけにはいけません。国民の安全を守ることが政治家の最も重要な使命であるならば、普天間飛行場を今すぐにも移設させ、宜野湾市民の安全を確保することが第一です。

**真つ先に解決すべきことを明確に**

政治とは、長期的視野と短期的即断との双方のバランスを取りながら、現実を少しずつ前進させていくことだと私は思います。基地問題や領土問題など、他国の利益や思惑が絡む事柄は、一方の国の主張が100%通ることは考えにくく、政治の舵取りとしては、問題解決に順序を設けることもまた必要です。宜野湾市の住民が現実に危険にさらされていることを思えば、まずは安全確保を優先させるという政治判断をせざるを得ないのではないのでしょうか。それが、自民党が県内移設の実現を優先させるといふ判断に踏み切った理由です。自民党が政権与党時代に辺野古への県内移設を日米間で決定した際にも議論の紛糾や苦渋の決断が数多くありました。しかし、その判断は妥当だったと私は感じています。

普天間問題の膠着は民主党の無責任な暴走によって引き起こされたものです。次の衆議院選挙の前に、民主党が政権与党である内にこの問題の方向性を示し、けじめをつけるべきです。それが出来なければ民主党は永久に沖縄県民の信頼を回復することは出来なんでしょう。オスプレイ問題がこれほどに日本中の注目を集めている今、基地問題を沖縄特有の問題とせず日本全体の問題として考えるよい契機にしたいと思えます。

**南区トピックス**

特定外来生物に指定されている毒グモ「セアカゴケグモ」の被害が発生しました。また南区では発見報告はありませんが、もしものときは咬傷部位を温水や石けん水で洗い落とし、できるだけ早く近くの医療機関を受診してください。